

2019年U20東京メイヤーズ・サミット・コミュニケのポイント

東京都の小池百合子都知事は、5月22日、2019年U20東京メイヤーズ・サミットの閉会にあたり、6月に日本で初めて開催されるG20サミット（大阪）に向け、G20が都市と連携して取り組むべき43項目を取りまとめたコミュニケを発表した。コミュニケは、小池知事が安倍内閣総理大臣に手交し、都市の意見と経験をG20の議論に反映させることを求めていく。

<U20コミュニケのポイント>

○前文では、各都市の開発戦略を国連の持続可能な開発目標（SDGs）に確実に関連付けるとした。

○気候変動対策

- ・都は2050年のCO₂排出実質ゼロに貢献する「ゼロエミッション東京」の実現を目指していることから、U20においても、脱炭素化に向けた高い目標値を掲げるよう主導した。
- ・結果として、2050年までに温室効果ガス排出実質ゼロの達成、2050年までに再エネ100%の達成、2050年までの建物の脱炭素化などが盛り込まれた。

○社会の包摂及び統合

- ・2020東京大会に向けた取組を念頭に、都市計画におけるユニバーサルデザインの主流化を盛り込んだ。
- ・世界に先駆けて超高齢化を経験する都の意見で、高齢者のニーズへの積極的な対応を、ジェンダー平等や移住者対策と並ぶ柱とした。

○持続可能な経済成長

- ・2018年U20で取り上げた、急速な技術革新の負の影響（デジタルデバイドなど）への対処だけでなく、都が成長戦略として掲げる、先端技術を活用した都市の経済成長と都市の課題解決の両立を盛り込んだ。
- ・都市が先端技術を適切にガバナンスするための都市間協力の重要性を指摘した。
- ・質の高いインフラの整備について、強靱性（レジリエント）という視点を強調した。